

巻頭言

中村 宏

東京大学情報基盤センター長

あけましておめでとうございます。

当センターは昨年2つのスーパーコンピュータを導入しました。まず、2016年9月1日に正式サービスを開始したのが、データ解析・シミュレーション融合スーパーコンピュータシステム Reedbush です。これは、ビッグデータ解析や人工知能といった、近年ニーズが高まっている新しい分野の要求を満たし、学際領域研究の新たな進展を先導することをも目指しています。次に、2016年12月1日に全系を稼働し、現在試験運用期間中なのが、メモリア型大規模スーパーコンピュータシステム Oakforest-PACS です。これは、当センターと筑波大学計算科学研究センターが共同で運営する最先端共同 HPC 基盤施設 (JCAHPC: Joint Center for Advanced High Performance Computing) として導入したものです。Oakforest-PACS の理論演算性能は 25PFLOPS、LINPACK での実効性能は 13.55PFLOPS です。昨年11月に発表された TOP500 の最新リストにおいて、「京」コンピュータを上回り国内最高性能システムとして登録され、世界ランキングでも第6位となりました。

Oakforest-PACS が TOP500 リストで国内最高性能システムとして登録されたことには2つの意義があると考えております。一つは、5年ぶりに国内最高性能システムが交代したことです。2011年に「京」コンピュータが国内最高性能システムとなって以降も科学技術は発展しており、我が国が世界に伍していくためには、日本全体で利用できる計算能力を一層高める必要が生じておりました。今回、新しいシステムが国内最高性能システムとなったことは、これらの要求に応え、我が国の科学技術を大きく発展させる道を拓けるのではないかと期待しております。もう一つは、2つの大学による共同調達・導入・運用という試みが結実したことであります。これは国内初の試みであり、日本全体の力の結集へ向けた試金石にもなると考えております。

私どもは、国内最高性能を有する Oakforest-PACS、ならびに新分野の先導を担う Reedbush を共同利用・共同研究に供することで、さまざまな科学技術分野の研究開発のさらなる推進、新しい研究分野の創成、そして将来を担う人材育成に全力を尽くしてまいります。今後とも皆様方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。